

障害者に対するケアマネジメントにおけるソーシャルキャピタル概念に関する実証的研究

著者	小澤 温
著者別名	Ozawa Atsushi
発行年	2013
その他のタイトル	An investigation of social capital in care management for persons with disabilities
URL	http://hdl.handle.net/2241/120744

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 5日現在

機関番号：12102
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22330170
 研究課題名（和文）障害者に対するケアマネジメントにおけるソーシャルキャピタル概念に関する実証的研究
 研究課題名（英文）An investigation of social capital in care management for persons with disabilities
 研究代表者
 小澤 温（OZAWA ATSUSHI）
 筑波大学・人間系・教授
 研究者番号：00211821

研究成果の概要（和文）：ソーシャルキャピタルと障害者に対するケアマネジメントに関連する文献研究および事例研究を通してケアマネジメントにおけるソーシャルキャピタル概念の解明を目的に研究を実施した。パーソンセンタードプランニング（PCP）とストレンクス・ケアマネジメント（SCM）に関して理論的な整理を行い、このモデルをもとに事例分析を実施した。その結果、PCPとSCMのいずれの手法もエンパワメントには（ソーシャルキャピタルに関連する）インフォーマルサポートの有効性が示された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify a concept on social capital in care management for persons with disabilities by searching literatures on social capital and by case studies of care management. We focused on person centered planning (PCP) and strength case management(SCM). We can see from case studies in PCP and SCM that informal supports involved in social capital in these care management methods are effective in strengthen empowerment of persons with disabilities.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2011年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2012年度	1,600,000	480,000	2,080,000
年度			
年度			
総計	5,500,000	1,650,000	7,150,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：障害（児）者福祉

1. 研究開始当初の背景

障害者に対するケアマネジメントでは、障害者のエンパワメントへの支援が最も基盤となる取り組みであることが多くの文献から指摘されている。ケアマネジメントに

におけるエンパワメント支援の内容は、自己決定の支援、サービス利用に向けての主体的な行動の教育と訓練プログラムをあげることができる。このような支援は、インフ

フォーマルな社会資源である自立生活センター（身体障害者を主に対象にしている）ではかなり試みられているが、知的障害者および精神障害者を対象にした取り組みではまだ少ない現状があり、この分野でのケアマネジメント実践においては、エンパワメントを促進するための社会資源としてインフォーマルな社会資源の開発の必要性が高いことがある。これまで、ケアマネジメントにおける社会資源の整備に関しては、入所施設からの地域移行、精神科病院からの退院促進が障害者福祉施策の大きな柱であることもあり、グループホームなどの地域居住の資源と通所活動の資源の整備などのフォーマルな社会資源の整備が重視されてきた。「ソーシャルキャピタル」概念に関しては、社会福祉学において、「慈善、仲間、相互の共感、グループ内の人間関係、信頼、規範、ソーシャルネットワークといった個人の成長に有用な資源」（現代社会福祉辞典、有斐閣、2003年）といった定義がなされ、すでに、健康社会学や公衆衛生学では、地域住民の健康状態に大きな影響を与えていることが研究されている。また、社会福祉学でも高齢者福祉分野を中心に高齢者の精神的な健康との関連についての調査研究が増加しつつある。

2. 研究の目的

この研究では、「ソーシャルキャピタル」概念によるケアマネジメントにおける社会資源の整理と「ソーシャルキャピタル」として位置づけられた社会資源が障害者のエンパワメントを志向しているケアマネジメントに与える影響についての理論的な検討と実証的な調査研究の2側面から解明することを目的とした。

3年間の研究において次の3つの課題を1か年ごとに段階的に推進することによって明らかにしていく。

(1)障害者に対するケアマネジメントにおけるインフォーマルな社会資源の内容の整理

と「ソーシャルキャピタル」概念との関係を文献的に整理し、「エンパワメント」との関係を検討する。

(2)文献的に整理された「ソーシャルキャピタル」概念を用いて、「エンパワメント」を促進する実践的なケアマネジメントモデル（個人中心計画モデル、ストレングス・ケアマネジメントモデル）に焦点をあて分析を行う。あわせて、日本、アメリカ、韓国におけるケアマネジメントモデルの比較もあわせて実施する。

(3)「エンパワメント」に関係する実践的なケアマネジメントモデルの分析を通して、その実践モデルにおける「ソーシャルキャピタル」概念の有効性と課題について整理を行う。また、日本、アメリカ、韓国におけるケアマネジメントモデルの比較により、「ソーシャルキャピタル」概念のケアマネジメント実践における普遍性についても検討を行う。

3. 研究の方法

障害者に対するケアマネジメントモデルおよび社会福祉学分野における「ソーシャルキャピタル」概念に関する国内および海外（主に、アメリカ、韓国）の文献を収集する。収集された文献からケアマネジメントモデルにおけるインフォーマルな社会資源の内容の整理と「ソーシャルキャピタル」概念との関係を整理する。

ケアマネジメントモデル（個人中心計画モデル、ストレングス・ケアマネジメントモデル）の実践における「ソーシャルキャピタル」概念の有効性について考察を行う。

これらのモデルに基づいた実践における「ソーシャルキャピタル」概念の有効性と課題について調査研究を行う。また、日本、アメリカ、韓国におけるケアマネジメントモデルの比較により、「ソーシャルキャピタル」概念の普遍性についても検討を行う。

4. 研究成果

(1)ケアマネジメントモデルとしては、パーソンセンタードプランニング（以下PCP）に関しての文献収集と理論的な整理を行い、このモデルをもとに事例分析も一部実施し、ソーシャルキャピタルとの関係に関して調査を実施した。その結果、PCPについてアメリカ、イギリスを中心にこれまで数多くの

事例を用いた研究が報告されてきた。例えば、入所施設からの地域移行や、障害児の卒業時の就職支援、グループホームでの生活支援などにおける活用がある。「活動範囲の拡大」「問題行動の減少」「選択や好みの表明」といった本人の変化に関する報告とともに、「支援者チームが本人を個別的に捉えられるようになった」「本人たちが選択したことを実行するための支援を考えるようになった」といった支援者側の変化も多く報告されている。以上のことからPCPには多様な手法が存在し、いずれの手法もインフォーマルサポートの有効性が指摘されていた。

(2) 自立生活をしている重度障害者に関するケアマネジメントモデルに関する文献収集と理論的な整理を行い、事例分析により考察を行った。その結果、重度障害者の地域自立生活を決断し、遂行するためには、地域環境においてソーシャルキャピタルの豊富な地域での生活を選択している可能性が示唆された。特に、頸髄損傷者がいかなる葛藤、苦勞を経ながら、さまざまな工夫・支援等によって自らの身体状況との折り合いをつけているのかをICFにおける(ソーシャルキャピタルを含む)環境因子の重要性について考察した。

(3) ソーシャルキャピタルの有効性を検討するために、当事者のクラブハウス活動に焦点をあて、韓国における精神障害者に関わるクラブハウスの実践活動に関しても事例的な調査を実施した。その結果、クラブハウスとしての理念は共通していても地域のインフォーマルサポートの関わり方によって、実践活動の違いがみられた。韓国のテファ・ファウンテンハウスで行った参加型アクションリサーチでは、社会が作り上げた偏見や無理解のために自分たちの人権が守られていないことを指摘する一方で、自分たちの前向きな姿を社会に示すことも必要であることが示された。これは社会の偏見を乗り越え自分たちの人権を守るためには、単にその原因を

社会において非難するのではなく、現時点で当事者個人ができることを見つけ出し自分の生を大切に作っていかうとする姿勢につながることを示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

- ① 小澤温、障害者政策委員会に期待する－真の当事者参加に向けて、ノーマライゼーション、査読無、32巻1号、2012、14-15
- ② 小澤温、障害者制度改革の動向と課題－障害者権利条約の批准に向けて、日本生活支援工学会誌、査読無、12巻1号、2012、13-18
- ③ 小澤温、障害者総合支援法を考える－障害者制度改革推進会議・総合福祉部会の骨格提言の概略と論点、発達障害研究、査読無、34巻3号、2012、1-4
- ④ 小澤温、支給決定と相談支援－障害者自立支援法の改正と障害者総合支援法に向けての課題、発達障害研究、査読無、34巻3号、2012、14-21
- ⑤ 的場智子、韓国におけるキリスト教系社会福祉館の設立とその展開、ライフデザイン研究、査読無、7号、2011、365-367
- ⑥ 小澤温、発達障害の概念と課題、発達障害研究、査読無、33巻1号、2011、10-13
- ⑦ 小澤温、障害者制度改革の課題と展望、リハビリテーション連携科学、査読有、12巻2号、2011、89-95
- ⑧ 小澤温、障害者の権利に関する条約の批准にあたってのわが国の動向と課題、発達障害研究、査読無、32巻5号、2011、1-3
- ⑨ 坂野純子、的場智子、菊澤佐江子、精神障害者に対する大学生のスティグマの反応尺度の因子構造と関連要因、岡山県立大学保健福祉学部紀要、査読無、17号、2010、7-18
- ⑩ 小澤温、2009年度 回顧と展望－障害福祉部門、社会福祉学、査読無、51巻3号、2010、200-210

〔学会発表〕(計8件)

- ① 杉山克己、的場智子、心の病をもつ人々の支援に行政はどこまで責任を持つのか－「心の病」をもつ人々へのスティグマ及びまなごしに関する全国調査から、日本社会福祉学会第60回大会、2012年10月20日、関西学院大学(兵庫県)
- ② 坂野純子、的場智子、日本における心の

- 病としての認識、病名の推定、原因帰属の関連性、日本公衆衛生学会 71 回大会、2012 年 10 月 24 日、山口大学（山口県）
- ③ 小澤温、障害者制度改革と発達障害の概念、日本発達障害学会第 47 回大会、2012 年 8 月 11 日、横浜国立大学（神奈川県）
 - ④ 森地徹、小澤温、知的障害者を中心とした障害者支援施設における入所者の生活事態とニーズ把握に関する研究、日本発達障害学会第 47 回大会、2012 年 8 月 11 日、横浜国立大学（神奈川県）
 - ⑤ 笠原麻美、的場智子他、精神障害者に対するスティグマ的反応とその関連要因、日本公衆衛生学会 69 回大会、2010 年 10 月 27 日、日本大学（東京都）
 - ⑥ 坂野純子、的場智子、山崎喜比古他、接触体験と「怖さ」に関する意識の分析—『こころの病』をもつ人へのステグイマ及びまなざしに関する調査研究、日本社会福祉学会第 58 回大会、2010 年 10 月 10 日、日本福祉大学（愛知県）
 - ⑦ 菊澤佐江子、的場智子、山崎喜比古、精神疾患に際する相談行動に関する意識の分析—「こころの病」をもつ人へのステグイマ及びまなざしに関する全国調査から、日本社会福祉学会第 58 回大会、2010 年 10 月 10 日、日本福祉大学（愛知県）
 - ⑧ 小澤温、発達障害をめぐる研究と用語・概念に関する動向、日本発達障害学会 45 回大会、2010 年 9 月 5 日、東海大学（神奈川県）

〔図書〕（計 6 件）

- ① 小澤温 他、中央法規出版、精神保健福祉白書 2013 年版、2012、217
- ② 的場智子 他、明石書店、心の病へのまなざしとスティグマ—全国意識調査、2012、255
- ③ 小澤温 他、金子書房、発達障害者支援ハンドブック、2012、318
- ④ 小澤温 他、建帛社、生活と福祉—家庭・地域・社会・組織の福祉機能と生活支援、2011、149
- ⑤ 的場智子 他、勁草書房、健康被害を生きる、2010、341
- ⑥ 小澤温 他、中法規出版、新たな社会福祉学の構築、2010、396

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小澤 温 (OZAWA ATSUSHI)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：00211821

(2) 研究分担者

的場 智子 (MATOBA TOMOKO)
東洋大学・ライフデザイン学部・准教授
研究者番号：40408969